



傾斜地農業を支える野鍛冶の仕事はすべてオーダーメイド

野鍛冶はかつて、農林業に欠かせない存在でした。しかし作業の機械化などによって次第に姿を消し、にし阿波ではつるぎ町一字の大森豊春さん1軒だけになりました。傾斜地農業の専用農具の手入れに不可欠の存在です。

### 傾斜に適した農具を作る野鍛冶屋

大森さんは自分の農作業の経験をもとに、使う人に合わせて刃の細かな角度や間隔、柄の長さを調整して、丁寧な仕事ぶりが好評です。農具は一度修理をすれば、20年は使えるそうです。

### にし阿波に伝わる地域固有の雑穀品種

にし阿波の傾斜地では平らな土地をあまり作らなかつたので稲作は少なく、昔から焼畑が行われ、昭和の初期まで続きました。焼畑では、そば、ひえ、あわ、小豆、大豆が作られ、時代とともに葉たはこ、みつまた、藍などが栽培され、移動する焼畑から1カ所だけで作る常畑に変わってきましたが、雑穀栽培は続けられ現在に至っています。

いまも栽培されている雑穀は、徳島県の試験場で確認されただけでも、こきび19系統、あわ3系統、たかきび6系統、ひえ・しこくびえ各1系統、もちとうもろこし、在来とうもろこしなどがあり、非常に多種類の地域固有品種の栽培が続けられています。

東祖谷地域で「やつまた」と



あわ きび ひえ たかきび しこくびえ そば



たきゅうり ゆうご



傾斜地の恵みが集まる産直市

日本において、ひとつの地域内でこれほど多種多様な雑穀類が栽培されている事例は少なく、非常に珍しい地域といえます。これは焼畑時代から自家採種が行われ、先祖代々、栽培と種採りを繰り返してきたからこそ貴重な固有種が残されてきたのです。(これらの種は一度途絶えると復活は難しいとされています。)いわば「ジーンバンク」(Gene bank 生物多様性の保全を目的として、植物や動物の種子や精子・卵子など、様々な遺伝資源を保存収集する仕組み。遺伝子銀行)としての重要な役目を、にし阿波の傾斜地農業が果たしているのです。

にし阿波には雑穀のほかにも自家採種されることで受け継がれてきた貴重な在来品種の野菜類があります。こうしゅいも(じゃがいも)、ゆうご、たきゅうりなどで、これらは原種に近く、歴史や文化を知るための価値も高いといわれています。

にし阿波では約6800戸の農家(2015年農業センサスより)が、在来品種をはじめとする140品目以上の作物を栽培しています。こうした少量多品目の生産は天候不良などによる不作等のリスクが分散されるので、生産の持続性が高まります。

現在では約2300戸の農家が自家消費されない分の雑穀や野菜類を産直市などで積極的に販売しています。

### 自家採種がつかない貴重なジーンバンクの役割

### 在来品種の野菜類と少量多品目な生産



切っ先が鋭いサラエ。



ココに注目!

にし阿波地域の農具の特徴は先がとがっていること。小石の多い畑では、先がとがっていないと深く刺さらず耕しにくいので、独自の農具文化が発達しました。

### 5 耕土と生産のシステム

#### 耕土をつくり、回復させる技術—ツチアゲ

山間部の畑の土壌には、小石が多くあり、深く耕すために鉄の先が鋭く重い「テンガ」などの独自の農具で耕作し小石を砕いて農耕を営んできました。

#### 独自の農具文化

傾斜畑では傾斜度に合わせた刃の角度や柄の長さなど、独特の形をした多種多様な専用農具が古くから発達してきました。小石を砕いて土をつくるための、重く切っ先のとがった農具は、ほかでは見られません。

傾斜畑では傾斜度に合わせた刃の角度や柄の長さなど、独特の形をした多種多様な専用農具が古くから発達してきました。小石を砕いて土をつくるための、重く切っ先のとがった農具は、ほかでは見られません。専用農具は農家二人一人の体格や畑の傾斜度などに応じて、地域の野鍛冶が手作りしてきました。野鍛冶とは、昔は

村に1軒はあった鍛冶屋で、農具や林業の刃物、包丁などを鉄から作り出す職人です。傾斜畑では鉄の先が早く消耗するため、その修復をする野鍛冶は欠かせない存在です。



ヒトリビキ 等高線に沿って畝と畝の間に溝を掘るときに使う。



つるぎ町一字剪字 K氏の農具 左からサラエ テンガ ササバ フタツバ ミツゴ どれも先が鋭くとり、小石の多い土壌でも先が深く入り込む。

#### 1 深掘りテンガ

平均全長103cm、平均重量1.55kg  
サンプル数17

畝を作りゴウシュイモなどを植えるため深く掘るのに使う。また、根菜類など地中深い作物を掘り起こすのにも使用する。

#### 4 ミツゴ

平均全長81cm、平均重量0.68kg  
サンプル数73

主に畑を耕し整備する作業に用いられ、土の掘り起こしや雑草を枯らすための反転などに使用する。また、根菜類のゴウシュイモなどの収穫に使用する。

#### 2 テンガ(トンガ)

平均全長94cm、平均重量1.73kg  
サンプル数45

種をまく前に畑を深く耕すために使う。先のとがったものをサキテンガ、とがっていないものをカクテンガなど地域によって名前が異なる。「ツチアゲ」作業前に土を耕し、柔らかくするためにも使用する。

#### 5 イデキリ

平均全長108cm、平均重量1.04kg  
サンプル数18

等高線上に掻き上げながら畝を作るのに使う。また、作物の根元へ土寄せをするための道具。耕作面積が広い場合は、ヒトリビキと呼ばれる農具を使い畝を作る。

#### 3 サラエ

平均全長139cm、平均重量2.06kg  
サンプル数34

風雨などで傾斜畑の土壌が下に下がったのを元に戻すために使う。この土をかき上げる作業は「ツチアゲ」と呼ばれ、晩秋や春の種まき前に行う。6本歯の中心2本が少し長く、土をつかみやすくなっている。

#### 6 ササバ

平均全長54cm、平均重量0.44kg  
サンプル数55

小さな雑草を取るために使用する。小型で軽量なものが多く、片手で持ち、もう片手で雑草を取る。形が笹の葉に似ていることからササバと呼ばれている。草取りには他に歯が2つのフタゴ、3つのミツゴなどを用いる。

※各農具の大きさ・重さは平均値です



# 秋

自然の恵みを取獲保存し、  
コエグロや焚き木を作り  
冬に備えます



タネまき・苗植え・手入れなど	収穫・加工・保存など	年中行事・祭事など
土上げ	雑穀の収穫と乾燥(ハデ干し) とうきび もちきび こきび あわ ひえ そばなど	口山八朔踊り(美馬市)
麦のタネまき	豆類の収穫と乾燥 小豆 大豆など	三頭神社お練り(美馬市)
夏秋まき作物のタネまき 大根 かぶ にんじん ごぼう さやえんどう せんば[高菜] 春菊 そらまめ キャベツ ほうれん草 ねぎ 玉ねぎ なら アスパラガス 里芋 こんにゃく芋 チシャ菜など	さつまいもの収穫	法市農村舞台(東みよし町)
カヤの刈り取り	果樹の収穫 ゆず すだち はっさく さるなし キウイ 愛宕柿 大和柿 西条柿 刀根柿 次郎柿 富有柿 カリン 栗	足代の獅子舞(東みよし町)
コエグロづくり	秋冬野菜の収穫	金丸八幡神社 宵宮神事(東みよし町)
焚き木づくり	加工品づくり 芋粉 ほんたい粉 ぎんなん たくあん 干し柿 そば粉	お亥の子さん(つるぎ町)
		祖谷の粉ひき節日本一大会(三好市)

# 冬

柿や大根、さつまいもなどを干し、  
保存食を作ります



タネまき・苗植え・手入れなど	収穫・加工・保存など	年中行事・祭事など
	剣山おろし(11月~3月に吹く冷風)	正月行事 堂の口明け お堂で守処札 手の口明け 正月のお日待
	干し物づくり 干し柿 干し芋 干し大根 切り干し大根 ハリハリ大根 干しずいき 干し唐辛子 干しシイタケ	白人神社御的祭(美馬市)
	いも穴にいも類を貯蔵	天の岩戸神楽(つるぎ町)
	加工品づくり 味噌 こんにゃく もち そば米	
	冬野菜の収穫 大根 かぶ 高菜 春菊	

# 春

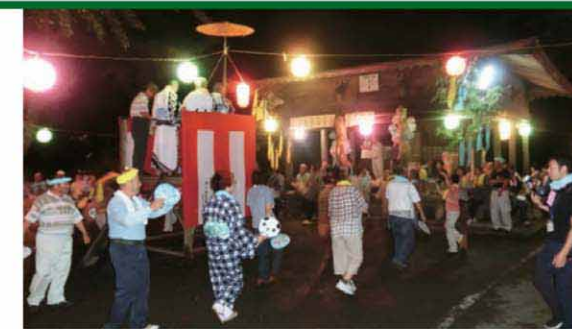
芽吹きと花咲く春は、  
山菜採りやタネまきを行います



タネまき・苗植え・手入れなど	収穫・加工・保存など	年中行事・祭事など
土上げ	山菜採り ふきのとう ふき わらび うど たら芽 ぜんまい たけのこ よもぎ いたどり	塩塚高原野焼き(三好市)
雑穀のタネまき ひえ たかきび こきび あわ しこくびえ(やつまた)	春野菜の収穫 ねぎ さやえんどう そらまめ いちご キャベツ チンゲンサイ レタス みつば 細ねぎ 玉ねぎ なら にんにく アスパラガス チシャ菜など	剣山お山開き(三好市、美馬市、つるぎ町)
春まき作物のタネまき・苗植え 太きゅうり ゆうご きゅうり すいか なす トマト ビーマン 唐辛子 さやいんげん 夏あずき 枝豆 大豆 うり とうもろこし オクラ かぼちゃ 小松菜 キャベツ しそ 落花生など	お茶摘み、お茶づくり	新山大師護摩供養(美馬市)
いも類の植え付け ごうしゅいも さつまいも	干しぜんまい	百手行事[おの神事](三好市、つるぎ町)
	麦の刈り取り	

# 夏

そばのタネまき、夏野菜の収穫、  
盆踊りでにぎわいます



タネまき・苗植え・手入れなど	収穫・加工・保存など	年中行事・祭事など
そばのタネまき	梅漬けづくり	虫祈禱・虫送り
畑の草取り	らっきょう漬けづくり	お堂の護摩供養・数珠回し
夏まき作物のタネまき 小豆 白菜 ブロッコリー 菜の花 カリフラワー レタス キャベツ 小松菜など	夏野菜の収穫	夏越しの大祓
	ぶどうの収穫	観神社例大祭(三好市、美馬市、つるぎ町)
	ごうしゅいもの収穫	西祖谷の神代踊り[雨乞い踊り](三好市)
		盆踊り 踊り念仏(つるぎ町) 廻り踊り(三好市、美馬市、東みよし町、つるぎ町) 山城の鉦踊り(三好市) 門念仏(つるぎ町)



# にし阿波 傾斜地集落の 文化



「食と農の景勝地」  
(SAVOR JAPAN) 認定

農林水産省は2016年に、地域の食文化や景観を生かした訪日外国人旅行者（インバウンド）誘致の取り組みを支援する「食と農の景勝地」という制度を創設しました。2016年度、全国5地域の認定地の中で、西日本では唯一「にし阿波地域」が認定されました。にし阿波には米の代わりに主食とされてきたそばや雑穀、在来野菜、独特の保存食や郷土料理が受け継がれていて、この土地ならではの伝統と文化が外国人客をはじめ、多くの感動を呼んでいます。

## 郷土料理

傾斜地集落では豊富な雑穀類や、地域固有の作物を使った郷土料理が長年にわたり受け継がれています。



### 【そば米雑炊】

雑炊に使う「そば米」は、そばの実を塩ゆでし、殻をむいて乾燥させたものです。それに鶏肉（かしわ）、里芋、椎茸やネギなどを加えたもので、にし阿波を代表的する郷土料理です。そばの実を製粉せずに食べる料理は珍しく、棚田の少ない傾斜地では米の収穫がとばしかったことから、米に見立てて作ったのが始まりとされています。

### 【雑穀もち】

たかきびやこきびなどを、もち米とともにつくお餅。地域の正月には欠かせません。



### 【どうしゅいも】



どうしゅいもは在来種のじゃがいもで赤いものと白いもの2種類があり、源氏の白旗、平家の赤旗にちなんで「源平いも」と名付け、地域ブランドとしても販売されて根強い人気があります。

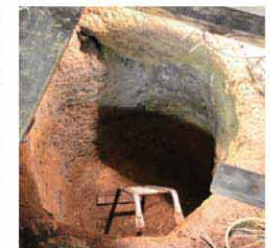
### 【はったい粉・はったい粉飴】

大麦の一種の裸麦を煎って粉にしたもの。おちらし、麦こがしとも呼び、これに水飴や砂糖を加えて飴にしたものも素朴なおやつで人気です。



### いも穴(いも壺)

傾斜地集落では、収穫物の凍結に備えて、いも類を保存するための住居や納屋の床下に貯蔵穴が備えられています。家により大きさは違いますが、深さ2m、直径1.5mほどの穴に大量のじゃがいもやさつまいも、里芋を入れ、わらやもみ殻などを重ね、穴を開けた竹筒を通気のために差し込みます。温度・湿度が一定に保たれ、春までの保存食となります。また、このいも類は種芋としても使用し、在来種の保存が継承されてきました。しかし、近年では保存技術の発達により、旧家以外でもいも穴(いも壺)はほとんど見かけなくなりました。



## 保存食文化—干し物

にし阿波の山間部では冬季に吹く「剣山おろし」と呼ばれる寒風で、さまざまな穀物・野菜・果樹などを干し物にします。玄関先の「かど」という空いた場所や石垣、畑など平地が少ない土地に「ハデ」という木組みが立体的に建てられていて、作物はこのハデや、家・納屋の軒下などに大量に干されます。

干し物は、雪に覆われる冬季をはじめ、年間を通して生活を支える大切な保存食になります。



浪柿は寒風にさらされて、極上の甘みを持つ干し柿になる。にし阿波の干し柿は特産品として有名。



加工品で人気の干し芋は種類が多く、にし阿波ではさつまいもを輪切りにし、中央に穴をあけ、わらを通して何枚も重ねて吊るす形式が多い。



栽培ぜんまい発祥の地である三好市山城町をはじめ、にし阿波では干しぜんまいも特産品となっている。

## お堂文化

にし阿波にはお堂がたくさんあります。祀られている本尊によって薬師堂、阿彌陀堂、大師堂と呼ばれるものや、地名から川見堂、捨子堂という名称のものなど。1981年の調査では、徳島県内に610のお堂があり、そのうち、にし阿波では425のお堂がありました。県内の約7割のお堂が、にし阿波に集中しています。

お堂の起源については、次のように言われています。

「仏教が庶民の中に、根をおろしてくるのは、平安時代の後期の、末法思想からであろう。庶民の苦しみを救うため、本尊を安置するための素屋が作られ、礼拝のために建物が建てられて、庶民の信仰のよりどころとしただけでなく、集落共同体の意識の中核機能を果たしてきたものと考えられ、この建物がお堂と考えられる」(『阿波のお堂』1988年より)。



つるぎ町一字久敷の久日堂

調査に残る徳島県内で最古のお堂は吉野川市美郷字別枝の「谷の堂」で、大同4年(809年)の棟札がありました。本尊の仏像で最古は、つるぎ町

半田字中熊の「中熊堂」に祀られている十二面観音像で、平安時代の作とされています。お堂では毎年、護摩焚き、大師講、数珠回し、堂の口明け(1年で最初の神仏のまつり始めをする日)などの宗教行事が行われてきました。娯楽や集会の場にも使われ、寄り合いでは農事に関わる情報交換や種苗などの譲り合いが日常的に行われ、お堂を中心に近所同士で助け合う「いい(結い)」や、労力を貸し合う「手間替え」が続けられてきました。

## 傾斜地集落の作業唄

傾斜地集落に古くから伝わる作業唄は、単調な仕事を少しでも楽しくするための工夫ともいわれています。

石うすを回しながら穀物を粉にひくときに唄う「粉ひき節」、カヤを刈り取るときに唄う「肥(こえ)刈り歌」、刈り取ったカヤなど重い荷物を運ぶときの「荷運び節」、木をのこぎりで切るとき「木びき歌」などがあります。

「祖谷の粉ひき節」は歌に合わせて石うすを一定の速度で回し、そば粉を均一の粗さにするために唄われました。全国の民謡の中でも有名で、毎年秋には「祖谷の粉ひき節日本一大会」が地元で開催されています。

祖谷の粉ひき節  
祖谷のかずら橋や  
蜘蛛の巣(ゆ)のごとく  
風も吹かんのにゆらゆらと  
吹かんのに吹かんのに風も  
風も吹かんのにゆらゆらと  
風も吹かんのにゆらゆらと

## にし阿波の伝統祭事

### 【雨乞い踊り】

伝統祭事の雨乞い踊りは日照り続きに雨降りを祈願する踊りで、三好市の「西祖谷の神代踊り」は平安時代初期の発祥といわれています。つるぎ町「一字の雨乞い踊り」や、美馬市「木屋平の傘踊り」は、それぞれ地元の中学生に受け継がれています。



西祖谷の神代踊り。雨を表す紙をつけた花笠を振り、鉦や太鼓を打ち鳴らし、小唄を歌いながら回り踊る。



つるぎ町猿飼(さるかひ)集落で行われる、お亥の子さん

### 【お亥の子さん】

旧暦10月の最初の亥の日に豊作などを祈る行事が「お亥の子さん」で、主に西日本で行われています。

つるぎ町貞光の猿飼集落では小学生たちが民家を回り、カズラをくりつけた木の幹を大勢で引っ張り上げて地面にたたきつけながら「亥の子歌」を歌います。また、里芋の茎にワラを巻き付けた「イイチンタラ」という棒で民家の縁側を叩いて回ります。収穫への感謝と来年の豊作、家々の繁栄を祈願する儀式です。



# 暮らしインタビュー

世界が認めた「にし阿波の傾斜地農耕システム」は、農業だけでなく、農林漁家民宿や農家レストラン、6次産業化による特産品づくりなど、多角的に支えられています。さまざまな形で傾斜地農業とかかわられている方々にお話を伺いました。



## 戦国時代から続くソラの母屋 「できた物がほんまに美味しい」

みきどち  
つるぎ町貞光字三木枋  
いそがい  
磯貝勝幸さん・ハマ子さん



磯貝さんの庭先には食べ物を干すための木組みの「ハデ」(左)があり、右の納屋にも干した食べ物がいっぱい。「もし孤立しても、ひと月ぐらいは平気かな」とハマ子さん。



日当たりが良い傾斜畑の前で。太ねぎなどは学校給食にも使われている。

三 木枋集落にある磯貝さんのお宅は標高約400m余り。山の上の家なのに、「磯貝」という海を思わせる名字は不思議ですが、「この先祖さんが、神奈川県の三浦半島から移住してきたわけですよ」とハマ子さん。過去帳を見ていくと40年以上前のご先祖様が移住して来られたとか。勝幸さんは、「この集落へ番最初に入ってきたとるけに屋号は『母屋』というんです。ジイさんの親が(曾祖父)、ここいらの年貢を集めて、脇町まで刀を差して納め

て、脇町まで刀を差して納め

「ここでの暮らしは、年間を通してたくさん作業があります。冬の間は干し大根や干し芋などの干し物、味噌やきなことなどの加工品づくり。春が近づくととうしゆいもを植え、野菜類の種まきや苗作り、植え付け。夏が近づくとたかきび、あわ、こきびをまき、お茶摘みも。やがて小豆、大豆、そばを作り、秋には裸麦、干し柿作り。合間にカヤを刈ってコエクロを作り畑に敷く」。『百姓百品』って昔の人が言うように、大体の物は作る。ここでできた物は何でも美味しいん、キャベツからにんじんから、みな」とハマ子さん。

勝幸さんによると畑にカヤを入れる効用は素晴らしく、水をやらなくても雨が降るだけで土に湿り気があるとのこと。「カヤを畑に入れるからカラカラに乾いたことない。昔からの知恵じゃ」。

磯貝さん宅では体験型教育旅行も受け入れていて、都会からの修学旅行生と農作業を通じて交流しています。「農家に興味を持つ子供を育てないか」と、この素晴らしい世界農業遺産を継続することが大切だと力を込めて話してくれました。



### 基本情報

■美馬市  
徳島県美馬市穴吹町穴吹字九反地5  
Tel.0883-52-1212(代)  
[人口]29,432人(平成31年2月28日現在)  
[世帯数]12,802戸  
[面積]367.1km<sup>2</sup>

■三好市  
徳島県三好市池田町シンマチ1500-2  
Tel.0883-72-7600(代)  
[人口]26,182人(平成31年2月28日現在)  
[世帯数]12,713戸  
[面積]721.4km<sup>2</sup>

■つるぎ町  
徳島県美馬郡つるぎ町貞光字東浦1-3  
Tel.0883-62-3111(代)  
[人口]8,959人(平成31年2月28日現在)  
[世帯数]4,327戸  
[面積]194.8km<sup>2</sup>

■東みよし町  
徳島県三好郡東みよし町加茂3360  
Tel.0883-82-6303(代)  
[人口]14,456人(平成31年2月28日現在)  
[世帯数]6,294戸  
[面積]122.4km<sup>2</sup>

### にし阿波へのアクセス

●飛行機で  
東京—徳島空港 約1時間20分  
東京—高松空港 約1時間15分

●鉄道で  
東京—岡山(新幹線のぞみ)約3時間25分  
—阿波池田(特急南風)約1時間25分  
新大阪—岡山(新幹線のぞみ)約50分  
—阿波池田(特急南風)約1時間25分  
徳島(特急剣山)—穴吹 約40分  
—貞光 約10分—阿波加茂 約10分  
—阿波池田 約10分  
高松(特急しまんと)—阿波池田 約1時間

●高速バスで  
東京—三好 約9時間45分  
名古屋—三好 約6時間30分  
京都—三好 約3時間30分  
大阪—阿波池田 約3時間40分  
神戸—阿波池田 約3時間

### にし阿波 世界農業遺産 注目ポイント

- 美馬市
- 1 美村が丘
  - 2 山人の里
  - 3 脇町うだつの町並み
  - 4 道の駅 みまの里
  - 5 農家レストラン風和里
  - 6 たぬき家
  - 7 中尾山高原平成荘
  - 8 日本百名山 剣山
- つるぎ町
- 8 日本百名山 剣山
  - 9 道の駅 貞光ゆうゆう館
  - 10 貞光二層うだつの町並み
  - 11 望郷之丘
  - 12 猿飼集落のソバ畑
  - 13 猿飼集落の観光農園
  - 14 赤松集落展望台
  - 15 久敷のあじさい
  - 16 野鍛冶屋
- 東みよし町
- 17 東山内野集落
  - 18 吉野川ハイウェイオアシス
  - 19 六地藏峠
  - 20 水の丸ふれあい公園
  - 21 水の丸コエグロ
  - 22 加茂谷川岩陰遺跡群
  - 23 山愛の駅清流の水車
- 三好市
- 8 日本百名山 剣山
  - 24 道の駅 三野
  - 25 下影の棚田
  - 26 奥祖谷二重かざら橋
  - 27 落合集落
  - 28 麓庵トラスト
  - 29 祖谷のかざら橋
  - 30 道の駅 にしいや
  - 31 大歩危・小歩危
  - 32 道の駅 大歩危妖怪屋敷
  - 33 上名の茶畑

# 東京から移住して3年 愉しみながら 農家レストランを運営

美馬市穴吹町口山字瀨名  
大竹 一さん

食材はほとんど地元産で、新しい料理と伝統の味の両方が楽しめる。



農家レストランで働く大竹さんご一家。右端が大竹一さん。

「田舎暮らし、おすすめしたいですね」ニコニコとそう話す大竹一さんは2016年3月、定年退職を機に東京から奥さんの実家がある瀨名集落へ、一家で移住して来ました。今は奥さん、息子さんと農家レストラン「風和里」を運営しています。

瀨名集落は穴吹町の標高250〜550m付近にあり、傾斜地農業が行われている天空の郷です。地元で長年農業を営む小泉靖雄さんが、高齢化・少子化から集落の将来を思索

# 絶景の中で楽しい 農家体験 また帰りたくなる 「あんちゃんち」

東みよし町西庄字桑内  
安藤洋子さん



都会の中高生たちにとって、新鮮な体験ばかり。収穫〜料理まで体験することは、食育にも繋がる



「あんちゃんち」の辺りは見晴らしサイコー。

東みよし町の標高460mにある「民宿安藤（別名あんちゃんち）」は、「一般社団法人そらの郷」が行う体験型教育旅行や観光事業の呼びかけに応じて、国内外からたくさんのお客様を迎えています。都会の中学高校生をはじめ、カンボジア、マレーシア、韓国、台湾など国際交流の子供から大人まで季節ごとの農作業を体験し、ここで採れた野菜たっぷりの郷土料理を味わっています。

「車で案内したら最初は誰もがこの山の上の急斜面に住んでいること自体に驚いて、ここに連れていかれるんだらうとドキドキする。ヘアピンカーブをいくつか過ぎて、もうすぐ見えて来るよと言ったらパークと視界が開けて、うわーすごいーって」

みんなが絶景に感動するそうです。

人気の体験は竹細工と流しそうめん、子供も刃物を使い竹を削って箸と器を作りま



代表的な加工品。地元みやげのほか、京阪神のデパートでも販売される。



こんにゃく芋の皮むき作業。菌ごたえの良いこんにゃくが作られる。

険しい渓谷と激流で知られる名勝地・大歩危峽。妖怪「児啼爺」が生まれたこの地域で、平成12年から20年にわたって地域の農産物を加工販売しているのが「藤の里工房」です。組合長を務める岡田正子さんは「女性が働きやすく、収入を確保できる場所として組合を結成した」と話します。

工房では毎朝6時から夕方まで、女性ばかり4〜6名ほどが自分や家庭の事情に合わせて無理なく働き、手際よく地元の農産物を加工していきます。たかきびやあわなどの雑穀はお餅や団子に。きれいな湧き水が豊富な上名の岡田さんのわさび園で栽培されるわさびはわさび漬けに。山に自生するふきは佃煮のきやらぶきに。そのほか、ぜんまい、ざるなし、ささ、よもぎ、山椒、そばなど、地元の人に栽培、採取してもら

た物を使っています。「山城町の標高の高い傾斜地は寒暖の差があるから、いいお茶ができるんです。大歩危周辺では「八合霧」と呼ばれる雲海が季節の変わり目などに見られて、こういう霧や朝晩の寒さで作物の甘みが出て美味しくなるんですよ」

「ぜんまいも、山城町が大正4年ごろから栽培を始めた発祥の地で、日本一の生産といわれるほどです」

工房の製品は地元産直市や観光地のお土産コーナー、食料品店などのほか、京阪神のデパートでも販売されて、根強い人気を集めています。

商品開発から営業、雇用面まで組合員で把握、検討し、売り上げは出来るだけ還元して、みんなに分けてきました。工房の6次産業化事業は、地域の生計と農業、食文化を守る大事な柱です。

# 特産物を加工販売する 『藤の里工房』 6次産業化が山の生計と 食文化を守る

三好市山城町上名  
岡田正子さん



「藤の里工房」の皆さん。左から2番目が岡田正子さん。

世界農業遺産 **GIAHS**  
Globally Important Agricultural Heritage Systems



**Nishi-Awa Steep Slope Land Agriculture System**  
Officially recognized by FAO as a Globally Important Agricultural Heritage Site

世界中で何世代にもわたり家族単位で発展してきた農業は、食糧をつくるだけでなく生物多様性が豊かな環境を守り、技術や知識を蓄え、地域独自の景観や文化を形づくってきました。ところが現在、経済のグローバル化や気候変動など、さまざまな要因によって伝統的な農業のシステムは衰退しています。そこで2002年、国連食糧農業機関(FAO)が国連で提唱したのが「世界的に重要な農業遺産システム」略して「世界農業遺産(GIAHSジラス)」です。ユネスコの世界遺産(文化遺産)が基本的に現状を変えない「静的保全」なのに対して、世界農業遺産は変化しながら保全していく「動的保全」で、未来へつなげる活動を行っています。

世界では21カ国57地域が世界農業遺産に認定され、日本は、にし阿波を含めて11地域が認定されています。(2018年12月現在)

**農業システムを  
保全する意義**

にし阿波の傾斜地農耕システムは、少量多品目を栽培して自給自足の暮らしを続けている小規模な農家を中心に継承されてきました。資本主義経済の中で農業は近代化され、大規模になりつつありますが、その対極の、にし阿波のような小さな農業の価値も見直されています。その価値の一つは、雑穀文化にあります。世界の主食は米、小麦、とうもろこしが3大穀物になっていますが、にし阿波の傾斜地では稲作が難しかったこともあって雑穀が主に作られてきました。それが環境に負荷をかけない独自の農業として継承されてきました。価値の二つ目は、小さな農業ならではの強さです。

稲作は日本の農業の中心ですが、単一栽培は天候不順などに弱いものです。にし阿波の少量多品目な農業は災害に強く、社会の変化にも耐えることが可能です。価値の三つ目は、コミュニティの絆にあります。にし阿波では住民が小さな農業を営みながら、地域の共同作業や文化行事に参加し、農作物のやり取りをして、相互扶助が地域を守る原動力になっています。遺産は一度失われると二度と元には戻りません。世界農業遺産の認定をきっかけに、にし阿波の傾斜地農業を将来へ確実に受け継いでいく意義は大変大きいものです。

**傾斜地農業 継承のための取り組み**

**担い手対策**



新規就農者を支援

**農泊の推進・食文化の発信**



農泊での農業体験

**生物多様性の保全  
伝統的な知識システムの継承**



地元小学校への出前授業

**農地の保全  
6次産業化の推進**



干し芋の6次産業化

**鳥獣被害防止**



モンキー犬の訓練

**文化価値観の継承  
ランドスケープの維持**



再生古民家宿泊施設

**おわりに**

にし阿波の傾斜地でおこなわれている小さな農業は、最新の大規模農業の対極にあります。でもこれは「周回遅れのトップランナー」で、この農業にこそ、大規模災害や貧困、飢えといったいまの世界の問題を解決するヒントがあります。ぜひ、にし阿波に一度、来てみてください。

**本書の参考文献**

「図説 徳島県の歴史」三好昭一郎ほか(1994年) 「阿波のお堂」徳島県出版文化協会・沖田定信ほか(1988年) 「剣山系の世界的農業文化遺産」林博章(2015年) 「徳島剣山地域生物多様性調査報告書」四国自然科学研究センター(2015)

世界農業遺産に  
認定される  
ということ

エス・ディー・ジーズ  
SDGsにも  
貢献

**世界農業遺産 5つの認定ポイント**

2018年3月、「にし阿波の傾斜地農耕システム」が中四国では初めて世界農業遺産に認定されました。400年以上守られてきた傾斜地の農業と暮らしは、世界から高く評価されています。



**SDGsとは**

国連が2030年までに達成すべきとして掲げている世界共通の目標がSDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)です。「誰も置き去りにしない」という理念のもと、17の大きな目標と、169の具体的な目標が決められています。

今回、世界農業遺産に認定されたにし阿波の傾斜地農耕システムは、SDGsの達成に大きく貢献します。例えば、自給自足と物々交換の習慣は、大きな17の目標のうち「1 貧困をなくそう」「2 飢餓をゼロに」につながり、生物多様性を保つカヤ場を守っていくことは「15 陸の豊かさも守ろう」につながります。

いま、行政をはじめ多くの企業などがSDGsに対する取り組みを実践しています。傾斜地の農業と暮らしを守ることもSDGsの取り組みそのものです。私たち一人ひとりが真剣に取り組むことが求められています。

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**  
世界を変えるための17の目標

